



第7回

日本肝がん 分子標的治療研究会

The 7th Japan Association of Molecular Targeted Therapy for HCC

プログラム・抄録集

● 会 期

平成25年 1月19日(土)

● 会 場

じゅうろくプラザ

(岐阜市文化産業交流センター)

● 当番世話人

熊田 卓

(大垣市民病院 消化器内科 副院長)



第7回



日本肝がん 分子標的治療研究会

The 7th Japan Association of Molecular Targeted Therapy for HCC

プログラム・抄録集

●会 期

平成25年1月19日(土)

●会 場

じゅうろくプラザ

(岐阜市文化産業交流センター)

●当番世話人

熊田 卓

(大垣市民病院 消化器内科 副院長)

運営事務局 日本イベント企画株式会社
〒500-8289 岐阜県岐阜市須賀1-1-5-305
TEL : 058-274-6334 FAX : 058-274-9912
E-mail : info@kangan-7.jp

INDEX

ご挨拶	1
役員氏名一覧	2
参加者へのご案内	3
司会・コメンテーター・演者の 先生方へ	5
交通案内図	7
会場案内図	8
共催企業・団体一覧	9
タイムテーブル	10
プログラム	15
抄 録	
教育講演	27
シンポジウム	33
特別講演	53
一般演題	59
第3回沖田賞（日本肝がん分子標的 治療研究会奨励賞）募集のお知らせ	113
入会および年会費納金のお願い	114
入会申込書	115

ご挨拶



第7回日本肝がん分子標的治療研究会

当番世話人 熊田 卓 大垣市民病院
消化器内科 副院長

このたび第7回日本肝がん分子標的治療研究会を岐阜で行うことになり大変光栄に存じます。

ご存知のように、わが国の肝細胞がんの局所治療は肝切除、ラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術など世界でも突出して進歩・発展してきました。また、長年、肝細胞がんの「高危険群」であったB型肝炎キャリアはウイルスの抑制が可能となり、C型肝炎キャリアはインターフェロンを使用せずに経口剤で治療可能となりつつあり、今後減少してくると思われます。しかし、一方では「高危険群」の設定が困難なウイルスマーカー陰性の肝細胞がんも多く見られるようになり、進行した状態での発見例も少なくありません。現在他の分子標的薬も肝細胞がんに対して治験中であり、その承認が待たれるところであります。

今回のシンポジウムのテーマは「進行肝細胞癌に対してネクサバルを含んだ治療を、どう生命予後改善につなげるか?」としました。ネクサバルが承認され3年半経過し、多数例に対して投与されてきました。経験豊富な施設をお願いして発表していただきますのでその内容には期待できるかと思ひます。また一般演題も50題申し込みいただき、研究会としては初めて2会場で行います。

真冬でもあり、アクセスに関して心配されている方が多いかと思ひます。そのことも考え、会場はJR岐阜駅に隣接しております「じゅうろくプラザ」としました。東海道新幹線名古屋駅からJR在来線で20分弱、中部国際空港から名古屋鉄道、名鉄岐阜行きの特急をご利用いただければ60分で到着し、大変便利なところだす。1月の岐阜は寒いですが雪はほとんどありません。会場近くでは黄金の「織田信長像」がお待ちしております。お忙しいとは思ひますが、多数の御参加を期待しております。

役員氏名一覧

■顧問

- 沖田 極（下関厚生病院）
神代 正道（久留米大学）
幕内 雅敏（日本赤十字社医療センター）
松井 修（金沢大学医薬保健研究域医学系）

■代表世話人（事務局）

- 工藤 正俊（近畿大学医学部 消化器内科）

■世話人

- 荒井 保明（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科）
有井 滋樹（浜松労災病院）
飯島 尋子（兵庫医科大学 内科肝胆膵科・超音波センター）
池田 健次（虎の門病院 肝臓内科）
池田 公史（国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科）
石井 浩（がん研究会有明病院 消化器内科）
泉 並木（武蔵野赤十字病院 消化器科）
市田 隆文（順天堂大学医学部附属静岡病院 消化器内科）
今井 康陽（市立池田病院 消化器内科）
大崎 往夫（大阪赤十字病院 消化器内科）
岡 博子（大阪市立十三市民病院 消化器内科）
奥坂 拓志（国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科）
角谷 眞澄（信州大学医学部 画像医学講座）
金井 文彦（千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学）
金子 周一（金沢大学附属病院 消化器内科）
河田 則文（大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学）
工藤 正俊（近畿大学医学部 消化器内科）
熊田 卓（大垣市民病院 消化器内科）
黒川 典枝（山口労災病院 消化器内科）
小池 和彦（東京大学医学部 消化器内科）
國土 典宏（東京大学医学部 肝胆膵外科・人工臓器移植外科）
國分 茂博（順天堂大学附属練馬病院 消化器内科）
斎藤 明子（東京女子医科大学消化器病センター 消化器内科）
坂元 亨宇（慶応義塾大学医学部 病理学）
島田 光生（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 消化器・移植外科学）
高山 忠利（日本大学医学部 消化器外科）
田中 克明（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
田中 正俊（ヨコクラ病院 内科）
中尾 一彦（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器病態制御学）
名越 澄子（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）
西尾 和人（近畿大学医学部 ゲノム生物学）
日野 啓輔（川崎医科大学 肝胆膵内科学）
古瀬 純司（杏林大学医学部 内科学腫瘍内科）
松崎 靖司（東京医科大学茨城医療センター 消化器内科）
溝上 雅史（国立国際医療研究センター国府台病院 肝炎・免疫研究センター）
矢野 博久（久留米大学医学部 病理学講座）

（五十音順・敬称略）

参加者へのご案内

1. 参加受付

受付日時 1月19日(土) 8:00～16:00

受付場所 じゅうろくプラザ 2階 エントランスホール
(岐阜市文化産業交流センター)
〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10番地11
TEL: 058-262-0150(代)

2. 研究会参加費用

参加費: 5,000円(会 員)
7,000円(非会員)
無 料(大学院生・学生)

※ネームカード(領収書兼用)をお渡ししますので、氏名・所属をご記入の上、会場内では必ず ご着用下さい。ネームカードを着用されていない方のご入場は固くお断りいたします。

3. プログラム・抄録集

1冊2,000円で販売しております。

※会員の先生方には事前にお送りしております。お忘れの場合は、抄録集代として2,000円を頂戴いたしますので、必ずご持参下さいませ。

4. 世話人会

日 時: 1月19日(土) 7:30～8:15

会 場: 岐阜都ホテル 2階 漣の間

5. 入会手続き・会費

第7回研究会当日、日本肝がん分子標的治療研究会事務局デスクを設置いたします。

入会手続き、会費納入をお受けいたします。

6. クローク

じゅうろくプラザ2階にクロークをご用意いたします。スペースには限りがございますので、お荷物はできるだけ各自で管理いただくようお願いいたします。

7. 昼 食

当日、受付において、参加証とともに昼食券・飲み物券を配布いたします。

お弁当は、昼食会場入り口にてお引き換えいたします。

なお、ご用意するお弁当の数には限りがございますので、ご了承ください。

昼 食 会 場：B会場(5階 大会議室)

引き換え時間：11:00～13:00

8. 駐 車 場

有料駐車場58台収容。(ただし、一部の車種についてはスペースの関係上お断りする場合があります。)または、周辺の有料駐車場をご利用ください。

9. その 他

1) 講演会場内での携帯電話のご使用は、他の参加者のご迷惑となります。

講演会場へのご入場の際は、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定をお願いいたします。

2) 講演会場内での呼び出しは原則として行いません。参加受付付近に掲示板をご用意いたしますので、受付までお声掛けください。

3) 講演会場内での撮影・録音はご遠慮ください。

司会・コメンテーターの先生方へ

1. ご担当セッションの開始15分前までに、会場内右手前方の「次座長席」にご着席ください。
2. 講演発表における各演者の持ち時間は下記の通りです。限られた時間内で発表が円滑に進行するよう、ご配慮ください。
 - 一般演題 症例検討 セッション I III IV V VIII IX X XII XIII (持ち時間 発表6分、討論2分)
症例報告 セッション II VI VII XI (持ち時間 発表4分、討論2分)
 - シンポジウム (持ち時間発表 6分、特別発言8分、総合討論40分)

演者の先生方へ

1. 発表データ作成・受付要領

1. 演題の発表はすべて、パソコンを使用した口演発表といたします。
2. 演者は発表の30分前までに、PCセンター [A 会場前(ホール)] 前にお越しください。
PCセンター開設日時 1月19日(土) 8:00～
3. ノートパソコン持参またはデータ持参(CD-ROM、USB フラッシュメモリのみ)による発表が可能です。
ただし、Macintoshでデータを作成される場合には、ご自身のパソコンをご持参ください。また動画を使用される場合にも、パソコンをご持参ください。

〈PC 本体をお持ちいただく方〉

- パソコンは、WindowsXP 以上、Macintosh OS9.0 以上のもので、USB ポートを有するものをご持参下さい。アプリケーションは、Microsoft PowerPoint のみとさせていただきます。
- 動画をご使用の場合は、動画ファイルを発表データと一緒にフォルダに入れ、作成した PC 以外の PC で動作確認した上でお持ち込みください。
- スクリーンセーバーのならびに省電力設定は、予め解除してください。
- 電源ケーブルは必ずご持参ください。また、映像出力端子は D-sub15pin の備わったものをご用意ください。
- お持ち込みいただく PC に保存されている貴重なデータの損失を避けるため、必ず事前にデータのバックアップをしてください。
- PC の返却は、オペレーター席にて行いますので、発表後お引き取り下さい。

〈メディアをお持ちいただく方〉

- 発表に使用できるデータは、Windows(XP、Vista、7)で作成した Microsoft PowerPoint(2003、2007、2010)のファイルのみとします(※ Windows 8 不可)。画面サイズは XGA(1024×768)になります。
 - 発表データを CD-R にコピーする際には、ファイナライズ(セッションのクローズ・使用した CD のセッションを閉じる)作業を必ず行ってください。この作業を行わなかった場合、データを作成した PC 以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能になりますのでご注意ください。
 - フォントは、Windows に標準搭載されているものをご使用ください。これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ・文字化け・表示されない等のトラブル等が発生する可能性があります。
4. PC センターでは、発表データの修正・変更はできませんので予めご了承ください。
 5. ファイル名は、「演題番号_発表者(筆頭演者)名」としてください。
 6. 発表は1面投影とし演題上に設置された液晶モニターをご覧いただきながら、マウス・クリッカーを ご自身で操作ください。
 7. お預かりしたデータは、研究会終了後に事務局が責任をもって消去いたします。

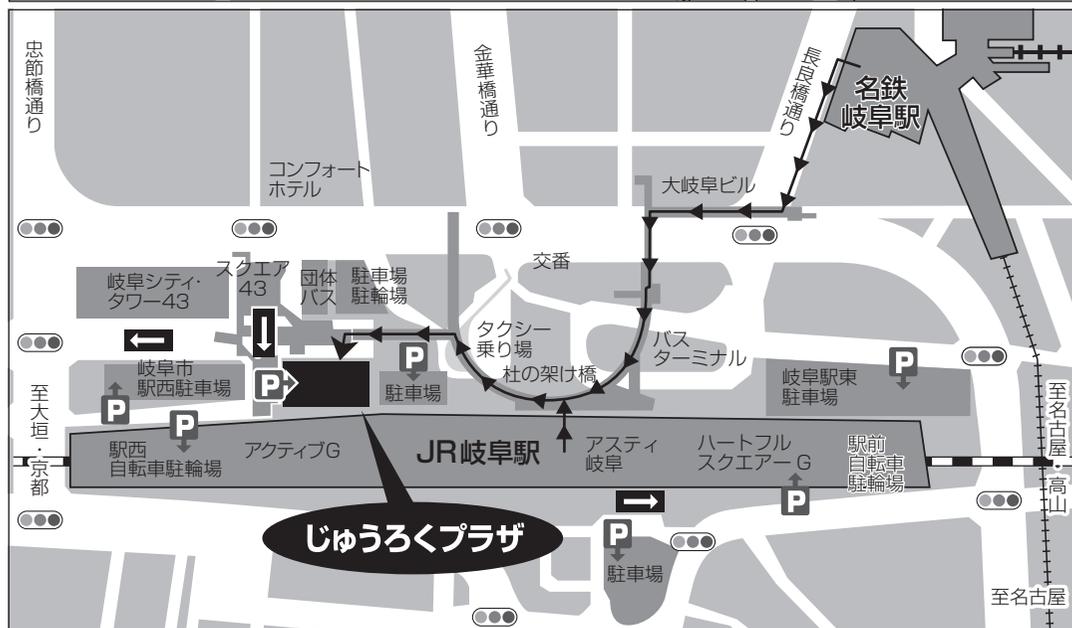
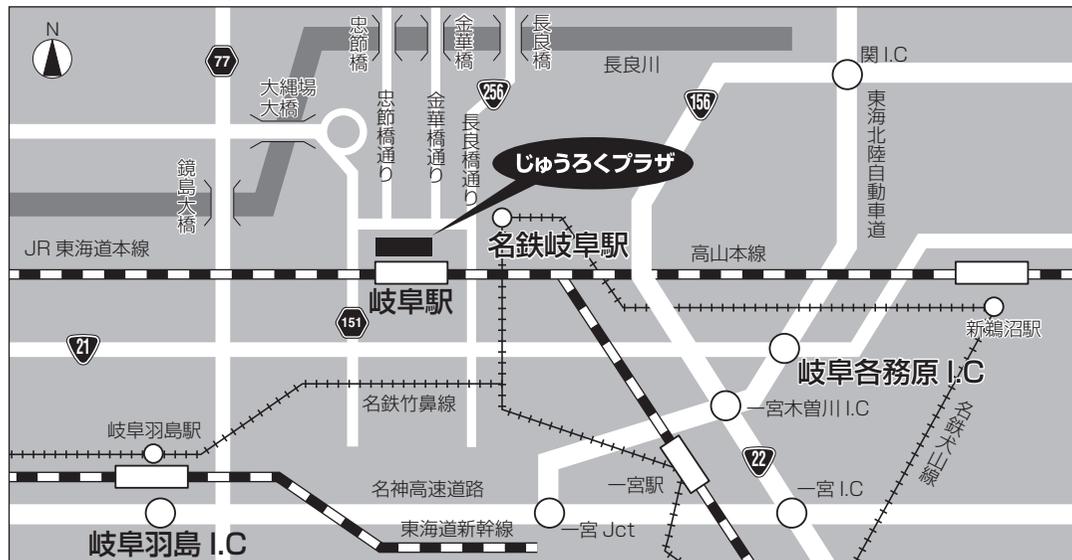
2. 講演時間

1. 1演題あたりの持ち時間は、下記の通りです。
一般演題 症例検討 セッション I III IV V VIII IX X XII XIII (持ち時間 発表6分、討論2分)
症例報告 セッション II VI VII XI (持ち時間 発表4分、討論2分)
シンポジウム (持ち時間発表 6分、特別発言8分、総合討論40分)
2. 発表終了1分前と発表終了時にランプでお知らせいたします。
3. 発表時間の厳守をお願いいたします。

3. 次演者席

演者の方は、セッション開始15分前までに、会場左手前方の「次演者席」にご着席ください。

交通案内図



じゅうろくプラザ

〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10番地11
TEL.058-262-0150(代)

駐車場のご案内

有料駐車場 58 台収容。ただし、一部の車種についてはスペースの関係上お断りする場合があります。

会場へのアクセス

■ 電車 / JR名古屋駅から

JR岐阜駅まで 新快速18分

JR岐阜駅隣接 徒歩約2分

/名鉄名古屋駅から

名鉄岐阜駅まで 特急25分

名鉄岐阜駅より 徒歩約7分

■ 飛行機 / 中部国際空港から

名鉄岐阜駅まで 特急 55 分

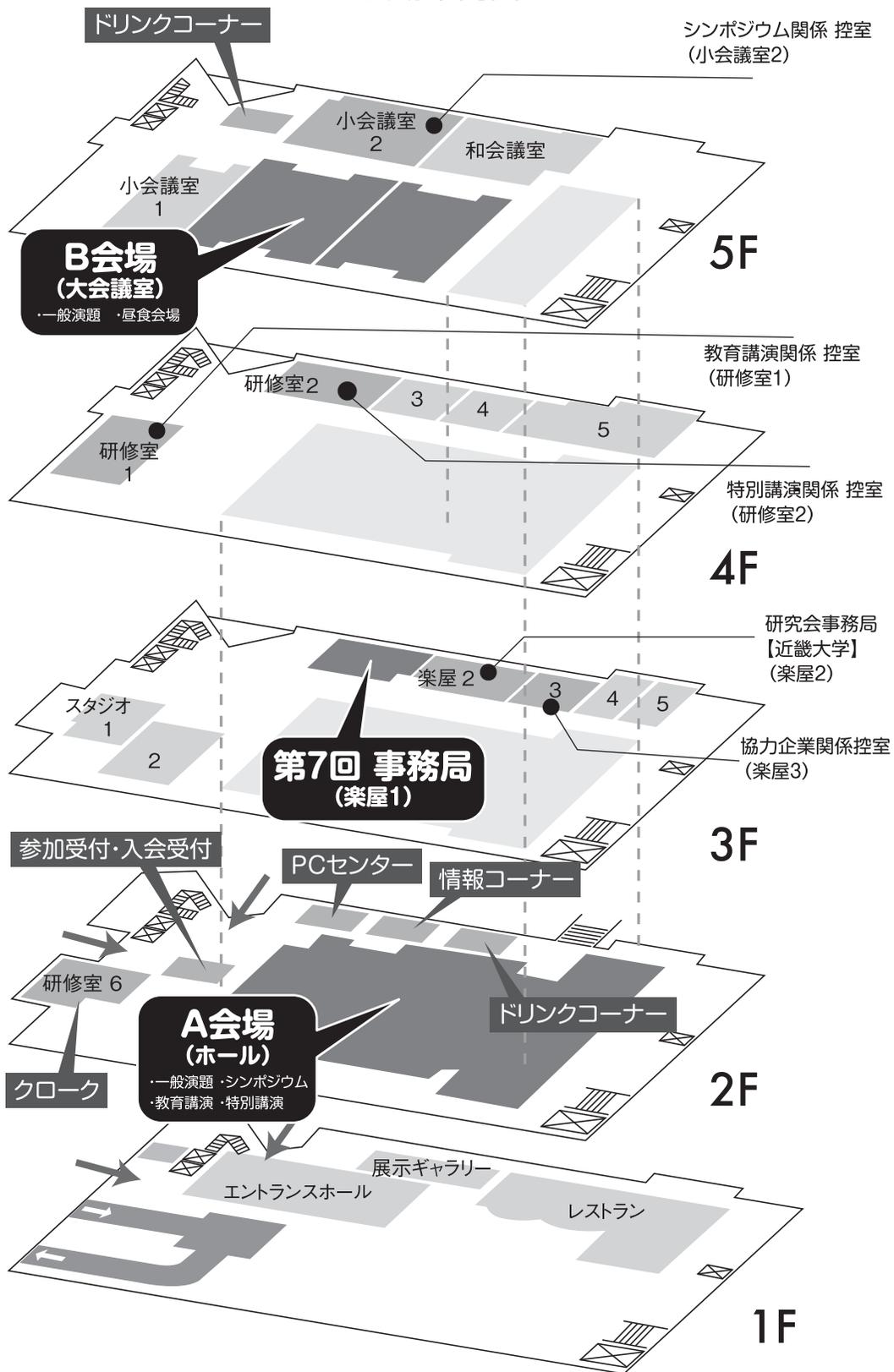
名鉄岐阜駅より 徒歩約 7 分

■ 車

岐阜各務原 I.C より 車約 15 分

岐阜羽島 I.C より 車約 20 分

会場案内図



第7回日本肝がん分子標的治療研究会

協賛企業・団体一覧

Diamond Sponsor

バイエル薬品株式会社

Platinum Sponsor

武田薬品工業株式会社

中外製薬株式会社

Gold Sponsor

味の素製薬株式会社

エーザイ株式会社

MSD株式会社

大鵬薬品工業株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

日本イーライリリー株式会社

ブリストル・マイヤーズ株式会社

Silver Sponsor

アストラゼネカ株式会社

大塚製薬株式会社

オリンパスメディカルシステムズ株式会社

財団法人岐阜観光コンベンション協会

興和株式会社

株式会社 J I M R O

ゼリア新薬工業株式会社

大正富山医薬品株式会社

田辺三菱製薬株式会社

東芝メディカルシステムズ株式会社

日本化薬株式会社

ノイエス株式会社

富士フイルムメディカル株式会社

(五十音順、2012年12月15日現在)

第7回日本肝がん分子標的治療研究会の開催にあたり、上記の企業・団体により多大なご援助をいただきました。ここに銘記し、そのご厚意に感謝いたします。

第7回日本肝がん分子標的治療研究会

当番世話人 熊田 卓

タイムテーブル

時間	A 会場 (2階 ホール)		
8:50~9:00	開会の辞		代表世話人：工藤 正俊 (近畿大学医学部 消化器内科) 当番世話人：熊田 卓 (大垣市民病院 消化器内科)
9:00~9:32	使用経験 (1)		【司会】
	01	Sorafenib 後治療の意義	田尻 和人 (富山大学附属病院 第三内科)
	02	進行肝細胞癌 (HCC) に対する ソラフェニブ再治療の検討	中澤 貴秀 (北里大学医学部 消化器内科学)
	03	ソラフェニブの治療成績と 予後因子に関する検討	河岡 友和 (広島大学病院 消化器・代謝内科)
セッション I	04	進行肝細胞癌に対するソラフェニブの 治療効果と後治療：多施設での検討	中野 聖士 (久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門)
	症例 (1)		【司会】
	05	血液透析導入前後でソラフェニブ用 量調節に課題が残った C 型肝炎 + 糖尿病の一例	山田 春木 (社会保険中央総合病院 内科)
	06	CDDP 不応の多結節性肝細胞癌に 対してソラフェニブ併用ミリプラチ ン肝動注療法が奏効した 2 例	永松 洋明 (公立八女総合病院 肝臓内科)
セッション II	07	Sorafenib と TACE の併用により 病勢コントロール可能であった肝細 胞癌肝内再発・多発肺転移の 1 例	竹村 信行 (東京大学医学部付属病院 肝胆膵外科)
	08	ソラフェニブ投与後に腹腔鏡下肝切 除術を施行した再発肝細胞癌の 2 例	高台 真太郎 (大阪市立総合医療センター 肝胆膵外科)
	新規治療薬		【司会】
9:56~10:20	09	ソラフェニブ治療における JNK 活性の 重要性 — CD133 との関連も含めて —	萩原 智 (近畿大学医学部附属病院 消化器内科)
	10	進行性肝細胞癌患者を対象とした E7080 の第 1/2 相試験；第 1 相パー ト Child-Pugh (CP) A コホート	近藤 俊輔 (国立がん研究センター中央病院)
	11	VEGF 受容体チロシンキナーゼ阻害 薬 (PTK787/ZK222584) とインター フェロン /5-FU 併用化学療法の併用 による抗腫瘍効果増強の作用機序	和田 浩志 (大阪大学大学院 消化器外科学)
セッション III	【司会】		池田 公史 (国立がん研究セン ター東病院 肝胆膵 内科)
	【コメンテーター】		矢野 博久 (久留米大学医学部 病理学講座)
10:30~11:30	教育講演 (共催：武田薬品工業株式会社)		【司会】
教育講演	肝がんとストレス蛋白質 (HSP : heat shock protein) : 特に低分子量 HSP との関連において		後藤 秀実 (名古屋大学大学院 医学系研究科病態修 復内科学 (消化器内 科) 教授)
	小澤 修 (岐阜大学大学院医学系研究科分子・構造学講座薬理病態学分野 教授)		

シンポジウム	12:30～14:00	シンポジウム 進行肝細胞癌に対してネクサバルを含んだ治療を、 どう生命予後改善につなげるか？ (共催：バイエル薬品株式会社)		【司会】 泉 並木 (武蔵野赤十字病院 消化器科)
	S1	ソラフェニブ治療後の後治療についての検討	上嶋 一臣 (近畿大学医学部 消化器内科)	【特別発言】 飯島 尋子 (兵庫医科大学 内科 肝胆膵科・超音波センター) 有井 滋樹 (浜松労災病院)
	S2	進行肝細胞癌に対する集学的治療における sorafenib の位置づけと治療戦略	土谷 薫 (武蔵野赤十字病院 消化器科)	
	S3	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療中止後の後治療から検討した治療戦略	山下 竜也 (金沢大学附属病院 地域医療教育センター)	
	S4	進行肝細胞癌に対する分子標的治療の位置づけについて；肝動注療法との比較成績	中馬 誠 (北海道大学大学院医学研究科 消化器内科)	
	S5	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ投与症例の PD 判定後の現状と治療成績 —ソラフェニブ増量や他治療の併用・切り替えによる治療成績向上の可能性—	葛谷 貞二 (名古屋大学医学部附属病院 消化器内科)	
	S6	進行肝癌の集学的治療における sorafenib の位置づけ～当科での治療経験	竹田 治彦 (大阪赤十字病院 消化器内科)	
S7	PD 後のソラフェニブ継続についての検討	出口 章広 (公立八女総合病院 肝臓内科)		
特別講演	14:00～14:50	特別講演 ビーズ上陸への心構え 荒井 保明 (国立がん研究センター中央病院病院長、放射線診断科長) (共催：エーザイ株式会社)		【司会】 森脇 久隆 (岐阜大学大学院医学 研究科消化器病態学 教授)
セッション VII	15:00～15:24	症例(3)		【司会】 片野 義明 (名古屋大学医学部 附属病院 消化器内科)
	23	sorafenib 開始後初回判定で PD であったが3カ月以上の投与によって PR 以上の治療効果が得られた進行肝細胞癌の2症例	大原 芳章 (大阪赤十字病院 消化器内科)	【コメンテーター】 日野 啓輔 (川崎医科大学 肝胆 膵内科学)
	24	術後ソラフェニブ内服に伴い腹壁出血を認めた肝細胞癌の一例	波多野 悦朗 (京都大学 肝胆膵・移植外科)	
	25	Sorafenib 投与後の放射性胃炎の増悪に対する対処方法	谷口 博順 (日本赤十字社医療センター 消化器内科)	
26	Sorafenib 投与中止の判断を考えさせられた一例	小尾 俊太郎 (佐々木研究所附属杏雲堂病院 消化器肝臓内科)		

15:24～15:48	用量設定		【司会】
	27	初回投与量の違いによる進行・再発肝細胞がんに対するソラフェニブ療法における治療継続性と安全性の検討	郷 真貴子 (大垣市民病院 薬剤部)
	28	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ初回減量投与症例の検討	前田 栄 (大阪大学大学院 消化器外科学)
セッション VIII	29	ソラフェニブ療法の初期用量設定についての検討	平峯 靖也 (鹿児島厚生連病院 内科)
	【コメンテーター】		河田 則文 (大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆脾病態内科学)
			金井 文彦 (千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学)
15:48～16:12	導入時期・効果判定		【司会】
	30	肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術不応症例における治療切り替えのタイミングはどうするべきか？	平岡 淳 (愛媛県立中央病院 消化器内科)
	31	血管新生関連サイトカインによる進行肝細胞癌の治療効果・予後予測	宮原 孝治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器・肝臓内科学)
セッション IX	32	進行肝細胞癌患者における Sorafenib 療法—C型肝炎とB型肝炎の背景肝の違いによる有効性と安全性の検討—	篠原 旭 (国立がん研究センター東病院 薬剤部)
			國土 典宏 (東京大学医学部 肝胆脾外科・人工臓器移植外科)
			【コメンテーター】 田中 克明 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
16:12～16:52	他治療との併用		【司会】
	33	分子標的薬と殺細胞性薬剤併用による治療効果増強の検証—高度進行肝癌に対する5-FU+ソラフェニブ併用療法の臨床第1相試験—	中西 満 (北海道大学医学部医学研究科 消化器内科)
	34	当院におけるソラフェニブ(SF)治療効果と局所治療の有無での予後の比較検討	永野 拓也 (香川県立中央病院 肝臓内科)
	35	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ+ビタミンK2併用療法	中下 俊哉 (佐賀大学 肝臓・糖尿病・内分泌内科)
	36	Sorafenib 先行投与後肝動注化学療法は門脈浸潤合併進行肝細胞癌の予後を改善する	永井 英成 (東邦大学医療センター大森病院 消化器内科)
	37	インターフェロンと Sorafenib の併用療法に関する基礎的検討	榎本 平之 (兵庫医科大学 内科学 肝・胆・膵科)
セッション X			【コメンテーター】 金子 周一 (金沢大学附属病院 消化器内科)
			古瀬 純司 (杏林大学医学部 内科学腫瘍内科)
17:00	閉会の辞		当番世話人：熊田 卓(大垣市民病院 消化器内科) 次回当番世話人：金子 周一(金沢大学附属病院 消化器内科)

時間	B会場(5階 大会議室)		
9:00~9:24 セッション IV	使用経験(2)		【司会】
	12	進行肝細胞癌に対する Sorafenib 減量投与の検討	黒川 典枝 (山口労災病院 消化器内科)
	13	肝動脈化学塞栓術に不応の肝細胞癌に対するソラフェニブの有効性—肝動注化学療法との比較—	【コメンテーター】 國分 茂博 (順天堂大学附属練馬病院 消化器内科)
	14	当院における進行肝細胞癌に対するソラフェニブの使用経験。特に TACE 併用例との比較。	桑原 明子 (国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)
9:24~9:48 セッション V	使用経験(3)		【司会】
	15	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療導入後の肝予備能および肝 volume の変化についての検討	大崎 往夫 (大阪赤十字病院 消化器内科)
	16	血小板低値の肝細胞癌患者に対する Sorafenib	【コメンテーター】 中尾 一彦 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器病態制御学)
	17	Sorafenib 治療による肝機能低下—その後の治療継続の問題点—	清水 怜 (国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)
9:48~10:18 セッション VI	症例(2)		【司会】
	18	ソラフェニブ先行投与後肝動注化学療法を用いることによって著効が得られた切除不能進行肝細胞癌の一症例	田中 正俊 (ヨコクラ病院 内科)
	19	ソラフェニブ投与により CR が得られた肝細胞癌の一例	【コメンテーター】 奥坂 拓志 (国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科)
	20	ソラフェニブを含む集学的治療にてコントロール良好なアルコール性肝癌の1例	小池 奈央 (三豊総合病院)
	21	再発を繰り返す肝細胞癌に対し、ソラフェニブを中心とした集学的治療により長期生存を得られている一例	竹田 努 (国立国際医療センター国府台病院 肝臓内科)
	22	ソラフェニブと放射線治療が奏功後、大腿骨転移の病的骨折に対し手術を施行し ADL および PS が改善した進行肝細胞癌の1例	菅谷 明德 (筑波大学附属病院 消化器内科)
11:00~13:00	昼食		会場：B会場(5階 大会議室)

15:00~15:30	症例 (4)		【司会】	
	セッション XI	38	ソラフェニブ投与により縮小した巨大肝海綿状血管腫の1例	山下 智省 (社会保険下関厚生病院 消化器内科)
		39	ソラフェニブの隔週投与で2年のlongSDが得られた1症例	徳永 志保 (鳥取大学医学部 機能病態内科学)
		40	ソラフェニブにより門脈腫瘍栓が退縮した肝細胞癌の一切除例	森口 正倫 (日本大学医学部 消化器外科)
		41	多型紅斑にてソラフェニブを休薬したが減感作療法により長期継続投与が可能となった1例	廣畑 成也 (兵庫県立加古川医療センター 消化器内科)
		42	ソラフェニブ投与によりCRを得られている慢性腎不全を伴う多発性肝癌患者の一例	石原 祐史 (社会保険中京病院)
			【コメンテーター】 今井 康陽 (市立池田病院 消化器内科)	
15:30~16:02	使用経験 (4)		【司会】	
	セッション XII	43	肝細胞癌ソラフェニブ治療における効果予測因子の検討	本田 琢也 (長崎大学病院 消化器内科)
		44	当科における肝細胞癌に対するソラフェニブ治療の問題点の検証	浦田 洋平 (山口大学大学院医学系研究科 消化器病態内科学)
		45	当院におけるネクサバル使用経験について	法正 恵子 (鳥取大学医学部 機能病態内科)
		46	当科における進行肝細胞癌に対するソラフェニブ投与例の検討	富山 恭行 (川崎医科大学 肝胆膵内科学)
			【コメンテーター】 高山 忠利 (日本大学医学部 消化器外科) 永井 英成 (東邦大学医療センター大森病院 消化器内科)	
16:02~16:34	その他		【司会】	
	セッション XIII	47	ソラフェニブ早期中止例の検討	山本 健太 (大垣市民病院 消化器内科)
		48	進行肝細胞癌に対する sorafenib 治療における臓器別抗腫瘍効果および進行様式の検討	小笠原 定久 (千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学)
		49	手足症候群に対するビタミンE製剤トコフェロールの使用経験	和田 幸之 (国立病院機構九州医療センター 肝胆膵外科)
		50	肝細胞癌における Heat shock transcription factor 1 (HSF1) の分子標的治療としての可能性	中馬 誠 (北海道大学大学院医学研究科 消化器内科)
			【コメンテーター】 高口 浩一 (香川県立中央病院 肝臓内科) 小尾 俊太郎 (佐々木研究所附属 杏雲堂病院 消化器 肝臓内科)	

プログラム

開会の辞

A会場(2階 ホール) 8:50~9:00

代表世話人：工藤 正俊(近畿大学医学部 消化器内科)

当番世話人：熊田 卓(大垣市民病院 消化器内科)

セッションⅠ 使用経験(1)

A会場(2階 ホール) 9:00~9:32

司会：池田 健次(虎の門病院 肝臓内科)

コメンテーター：名越 澄子(埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科)

01 Sorafenib 後治療の意義

○田尻 和人¹⁾、河合 健吾¹⁾、河相 覚²⁾、峯村 正実¹⁾、高原 照美¹⁾、安村 敏¹⁾、
杉山 敏郎¹⁾

1) 富山大学附属病院 第三内科、2) 真生会富山病院 消化器内科

02 進行肝細胞癌(HCC)に対するソラフェニブ再治療の検討

○中澤 貴秀、奥脇 裕介、日高 央、高田 樹一、田中 賢明、南野 勉、渋谷 明隆、
小泉 和二郎

北里大学医学部 消化器内科学

03 ソラフェニブの治療成績と予後因子に関する検討

○河岡 友和、相方 浩、榎木 慶一、福原 崇之、小林 知樹、苗代 典昭、中原 隆志、
宮木 大輔、長沖 祐子、高木 慎太郎、平松 憲、高橋 祥一、茶山 一彰

広島大学病院 消化器・代謝内科

04 進行肝細胞癌に対するソラフェニブの治療効果と後治療：多施設での検討

○中野 聖土¹⁾²⁾、黒松 亮子¹⁾²⁾、鳥村 拓司¹⁾²⁾、佐田 通夫¹⁾²⁾

1) 久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門、2) Kurume Liver Cancer Study Group

セッションⅡ 症例(1)

A会場(2階 ホール) 9:32~9:56

司会：岡 博子(大阪市立十三市民病院 消化器内科)

コメンテーター：石井 浩(がん研究会有明病院 消化器内科)

05 血液透析導入前後でソラフェニブ用量調節に課題が残った C型肝炎+糖尿病の一例

○山田 春木、山崎 允宏、葉山 惟信、三浦 英明

社会保険中央総合病院 内科

06 CDDP 不応の多結節性肝細胞癌に対してソラフェニブ併用 ミリプラチン肝動注療法が奏効した2例

○永松 洋明¹⁾、出口 章広¹⁾、城野 智毅¹⁾、鳥村 拓司²⁾、佐田 通夫²⁾

1) 公立八女総合病院 肝臓内科、2) 久留米大学 消化器内科

07 Sorafenib と TACE の併用により病勢コントロール可能であった 肝細胞癌肝内再発・多発肺転移の1例

○竹村 信行、青木 琢、清水 篤志、金子 順一、阪本 良弘、菅原 寧彦、長谷川 潔、
國土 典宏

東京大学医学部付属病院 肝胆膵外科

08 ソラフェニブ投与後に腹腔鏡下肝切除術を施行した再発肝細胞癌の2例

○高台 真太郎¹⁾、塚本 忠司¹⁾、金沢 景繁¹⁾、清水 貞利¹⁾、山添 定明²⁾、森本 純也²⁾、
大平 豪²⁾、中島 隆善²⁾、石川 彰²⁾、森 至弘²⁾、小塚 雅也²⁾、小松 久晃²⁾、後藤 航²⁾

1) 大阪市立総合医療センター 肝胆膵外科、2) 大阪市立総合医療センター 消化器外科

セッションⅢ 新規治療薬

A会場(2階 ホール) 9:56~10:20

司会：池田 公史(国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)

コメンテーター：矢野 博久(久留米大学医学部 病理学講座)

09 ソラフェニブ治療における JNK 活性の重要性 —CD133との関連も含めて—

○萩原 智、櫻井 俊治、工藤 正俊

近畿大学医学部附属病院 消化器内科

10 進行性肝細胞癌患者を対象とした E7080 の第 1/2 相試験： 第 1 相パート Child-Pugh (CP) A コホート

○近藤 俊輔¹⁾²⁾

1) 国立がん研究センター中央病院、2) 国立がん研究センター東病院

11 VEGF 受容体チロシンキナーゼ阻害薬 (PTK787/ZK222584) と インターフェロン /5-FU 併用化学療法の併用による抗腫瘍効果増強の作用機序

○和田 浩志¹⁾、瀨 直樹¹⁾、桂 宜輝¹⁾、山中 千尋¹⁾、前田 栄¹⁾、秋田 裕史¹⁾、
川本 弘一¹⁾、小林 省吾¹⁾、江口 英利¹⁾、梅下 浩司²⁾、土岐 祐一郎¹⁾、森 正樹¹⁾、
永野 浩昭¹⁾

1) 大阪大学大学院 消化器外科学、2) 大阪大学大学院 周手術期管理学

司会：黒川 典枝(山口労災病院 消化器内科)

コメンテーター：國分 茂博(順天堂大学附属練馬病院 消化器内科)

12 進行肝細胞癌に対する Sorafenib 減量投与の検討

○長沼 篤、星野 崇、高木 均

国立病院機構 高崎総合医療センター 消化器内科

**13 肝動脈化学塞栓術に不応の肝細胞癌に対するソラフェニブの有効性
—肝動注化学療法との比較—**○桑原 明子¹⁾、池田 公史¹⁾、光永 修一¹⁾、清水 怜¹⁾、大野 泉¹⁾、高橋 秀明¹⁾、
奥山 浩之¹⁾、近藤 俊輔²⁾、森実 千種²⁾、上野 秀樹²⁾、佐竹 光夫³⁾、荒井 保明⁴⁾、
奥坂 拓志²⁾

- 1) 独立行政法人 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科、
- 2) 独立行政法人 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科、
- 3) 独立行政法人 国立がん研究センター東病院 放射線診断科、
- 4) 独立行政法人 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科

**14 当院における進行肝細胞癌に対するソラフェニブの使用経験。
特に TACE 併用例との比較。**○鯉田 五月¹⁾、木村 拓也¹⁾、松田 康雄¹⁾、井上 雅文¹⁾、梶本 敦子²⁾

1) 八尾徳洲会総合病院 肝臓センター、2) 八尾徳洲会総合病院 皮膚科

司会：大崎 往夫(大阪赤十字病院 消化器内科)

コメンテーター：中尾 一彦(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器病態制御学)

**15 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療導入後の肝予備能および
肝 volume の変化についての検討**○澤田 保彦、藤永 幸久、才川 宗一郎、神戸 大介、永松 晋作、下里 直隆、
松尾 英城、中谷 敏也、菊池 英亮

県立奈良病院 消化器内科

16 血小板低値の肝細胞癌患者に対する Sorafenib○清水 怜¹⁾、桑原 明子¹⁾、奥山 浩之¹⁾、高橋 秀明¹⁾、大野 泉¹⁾、光永 修一¹⁾、
篠原 旭²⁾、小林 美沙樹²⁾、船崎 秀樹²⁾、近藤 俊輔³⁾、森実 千種³⁾、上野 秀樹³⁾、
奥坂 拓志³⁾、池田 公史¹⁾³⁾

- 1) 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科、2) 国立がん研究センター東病院 薬剤部、
- 3) 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科

進行肝細胞癌に対する sorafenib 治療における
臓器別抗腫瘍効果および進行様式の検討

○小笠原 定久、金井 文彦、大岡 美彦、元山 天佑、鈴木 英一郎、太和田 暁之、
千葉 哲博、横須賀 収

千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学

【目的】 進行肝細胞癌に対する sorafenib 治療における腫瘍の局在別抗腫瘍効果および進行様式について検討した。

【対象と方法】 2009年5月から2012年5月までに当科にてソラフェニブを通常用量(800 mg / 日)で分子標的薬一次療法として導入した92例のうち、RECIST version 1.1にてPDと判定された71例を対象としレトロスペクティブに解析を行った。

【結果】 患者背景は、年齢中央値71歳、男 / 女53/18, HBV/HCV 10/39, C-P A/B 58/13, BCLC B/C 33/38, Stage III/IVa/IVb 33/10/28であった。RECIST v1.1による抗腫瘍効果はCR/PR/SD/PD 0/2/45/27であり、Time to progression (TTP)は2.7M(中央値)であった。RECISTにてPDと判定された要因は、新規病変出現のみ15例、標的病変増大のみ25例、新規病変出現 + 標的病変増大30例、非標的病変増悪1例であった。肝内病変(intrahepatic lesion ; IHL)、脈管侵襲(macroscopic vascular invasion ; MVI)、肝外病変(extrahepatic metastasis ; EHM)有無によりTTPおよびOSの比較を行うと、IHLのみの群はIHL+MVI(EHMなし)群に比べて有意にTTPおよびOSが長かった(TTP : 5.8M vs. 2.1M, $P=0.0136$, OS : 23.3M vs. 5.0M, $P < 0.0001$)。IHL+EHM(MVIなし)群はIHL+EHM+MVI群に比べて有意にTTPおよびOSが長かった(TTP : 4.7M vs. 1.4M, $P=0.00003$, OS : 16.3M vs. 4.0M, $P=0.0008$)。腫瘍の局在別のTTP(IHL, EHMは標的病変の腫瘍径の合計が20%以上増大した時点を「進行」と、MVIは10mm以上の進展を「進行」と定義)は、IHLは5.4M, MVIは2.4M, EHMは2.4Mであった。MVIまたはEHMをとまなうIHLのTTPは2.8Mに対してIHLのみのTTPは6.7Mと有意に長かった($P=0.0207$)。

【結語】 MVIに対する sorafenib の治療効果は限定的である。一方、肝内に限局する肝細胞癌への sorafenib の有効性が示唆された。

手足症候群に対するビタミンE製剤トコフェロールの使用経験

○和田 幸之¹⁾、高見 裕子¹⁾、立石 昌樹¹⁾、龍 知記¹⁾、才津 秀樹¹⁾²⁾

1) 国立病院機構九州医療センター 肝胆脾外科、

2) 国立病院機構九州医療センター 臨床研究センター

【背景】 ソラフェニブ投与早期に起こる有害事象として手足症候群は注意を要する有害事象である。手足症候群は約5~7割に発症するとされ、ソラフェニブの休薬・減量の原因となることが多い。予防策として手足の保湿や投与前の角質処理などが推奨されているものの、予防効果は十分とはいえない。そこで、今回、われわれはソラフェニブによる手足症候群に対し、トコフェロール(ビタミンE)内服が有効と思われた症例を経験したので報告する。

【症例】 当科では、2009年6月から2012年10月までに進行肝細胞癌患者96例にソラフェニブを導入してきたが、48例(50%)に手足症候群の有害事象を認め、これまでの既報とほぼ同様の頻度であった。そのうち、手足症候群を発症した7例にトコフェロールを投与した。内訳は、男5例、女2例、Child-Pugh A 5例、B 1例、C 1例であった。手足症候群発症時のソラフェニブ投与量は400 mg 5人、200 mg 2人で、トコフェロール開始時の手足症候群は grade 2(疼痛を伴う発赤、軽度の角質肥厚など)4人、grade 3(強い疼痛を伴う高度の角質肥厚硬化、水疱形成)3人であった。grade 2は4例全例が1週間前後で疼痛消失し、さらに皮膚症状の改善も見られた。grade 3では皮膚症状の改善は認めなかったが、3例中2例に一時的ではあるが疼痛の軽減を認めた。7人中5人でソラフェニブ減量・休薬を要せずに投与継続可能であった。

【結語】 当科でのトコフェロールの使用経験から、臨床上注意を要する grade 2の手足症候群に対して、トコフェロールは有効であるかもしれない。しかし、grade 3の高度の角質肥厚をきたした症例には効果は期待しにくいと思われる。現在、ソラフェニブの手足症候群に対してはステロイド外用、NSAID等が使用されているが、トコフェロールは新たな治療選択肢となり得る可能性がある。しかし、まだ症例経験にすぎず、手足症候群に対して本当に効果があるかどうか今後検討する必要がある。

肝細胞癌における Heat shock transcription factor 1 (HSF1) の分子標的治療としての可能性

○中馬 誠¹⁾、坂本 直哉¹⁾、髭 修平²⁾、中西 満¹⁾、夏井坂 光輝¹⁾、須田 剛生¹⁾、
 莊 拓也¹⁾、横尾 英樹³⁾、中西 一彰³⁾、神山 俊哉³⁾、武富 紹信³⁾、前田 慎⁴⁾

1) 北海道大学大学院医学研究科 消化器内科、2) 札幌厚生病院 消化器科、
 3) 北海道大学大学院医学研究科 消化器外科 I、4) 横浜市立大学医学部 消化器内科

【背景と目的】肝細胞癌の発癌過程において慢性持続炎症、酸化ストレスの関与が考えられている。Heat shock transcription factor 1 (HSF1) は、生体の様々なストレスに応答し、細胞内のシグナル伝達で重要な役割を担っている分子である。最近肝発癌における HSF1 の関与が報告されたが、詳細な機序については、不明である。今回 HSF1 の肝癌における役割を解析し、肝癌における分子標的治療の可能性について検討した。

【方法】A；細胞生物学的検討

- 1) HSF1 標的遺伝子の探索
- 2) HSF1 knockout (HSF1KO) マウス、WT マウスの初代培養肝細胞株、HSF1 高発現肝癌細胞株 (HSF1 control)、同細胞株の HSF1-knock down (KD) 細胞での細胞増殖に関する検討
- 3) 上記マウス、細胞における apoptosis に関する検討

B；肝癌切除症例の組織検体における HSF1 の発現と臨床病理学的検討

【結果】

A；

- 1) microarray では、HSF1 発現抑制により、増殖因子 EGFR, EGR、転写因子 KLF、細胞骨格分子 vav3、細胞周期因子 CDC45、CDCA7 などの遺伝子で発現の低下を認めた。
- 2) HSF1-KD 細胞では、control に比較して、50% の増殖抑制を認めた。WT マウスに比較して HSF1 KO マウスでは、EGF 投与後の EGFR, ERK の発現低下、ERK のリン酸化の著明な低下を認めた。SCID マウスにおいて HSF1-KD では control に比較して有意に腫瘍の縮小を認めた。
- 3) TNF α 投与後の NF- κ B signal については、WT マウスに比較して HSF1 KO マウスでは、HSF1 により制御されている BAG-3 (Bcl-2-associated athanogene domain 3) の発現減少を介して、NF- κ B の活性化の低下を認めた。また HSF1-KD 細胞において、control 細胞に比較して TNF α 、5-FU 投与後の著明な apoptosis の亢進を認めた。

B；Western-blot、免疫組織染色では、癌部が非癌部に比較して 60% の症例で高発現しており、HSF1 の高発現と分化度、腫瘍径、肝内転移、予後が相関していた。

【結語】HSF1 の機能低下が、腫瘍の増殖抑制、apoptosis の亢進を示し、臨床検体での結果も踏まえて、HSF1 は肝癌における分子標的治療の一躍を担うと考えられる。



第3回沖田賞(日本肝がん分子標的治療研究会奨励賞) 募集のお知らせ

「沖田賞」は肝癌の分子標的治療に関連する研究で優れた基礎的・臨床的成果を論文発表され、この分野の発展に寄与した研究者を表彰するものです。

第8回日本肝がん分子標的治療研究会(2013年6月22日(土))が金子周一会長のもと金沢(加賀屋)で開催されるにあたり、第3回沖田賞を募集致します。

記

1. 発表論文

肝癌の分子標的治療もしくは将来、肝癌にも応用され得る分子標的治療の研究で英文の peer review journal に 2012年1月から12月の間に掲載された論文

2. 応募規定

応募条件：a) 本研究会の会員であること

b) 他の肝臓領域の賞を受けていない論文であること

c) 日本国内で行われた研究であること

d) 冊子体の雑誌は掲載月の論文を対象とし、冊子体を有さない E-pub のみの雑誌については、E-pub に掲載された段階での論文を対象とする

3. 応募方法

日本肝がん分子標的治療研究会のホームページ (<http://www.med.kindai.ac.jp/nkangan/>) より応募用紙をダウンロードして必要事項を記入の上、事務局まで郵送、またはメールで応募すること

事務局住所：〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

近畿大学医学部消化器内科内

日本肝がん分子標的治療研究会事務局

E-mail：theliver@med.kindai.ac.jp

応募書類の受理連絡がない場合は事務局に必ずお問い合わせください。

4. 応募期間

2013年1月から4月末日締め切り

5. 審査方法

沖田賞選考委員会にて厳正に選考致します。

6. 表 彰

第8回日本肝がん分子標的治療研究会時に表彰式を行い、賞状および副賞(30万円)を贈呈致します。

日本肝がん分子標的治療研究会 入会および年会費納金のお願い

さて、日本肝がん分子標的治療研究会ご入会に際し、年会費をお納め頂きたくご案内させていただきます。下記口座にお振込頂きますようお願い申し上げます。今後の活動資金にさせていただきます。ご協力の程、宜しくようお願い申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

年会費 2,000円

振込先：三井住友銀行 金剛支店(店番号194)
普通 3858111
名義：日本肝がん分子標的治療研究会
代表 工藤正俊

振込みの際、振込者氏名欄は個人名のみでご記入・ご入力ください。

(病院名からご記入されますと通帳記入の際に病院名のみ記載で終わり、お名前が記載されません。ご協力お願いします。)

新人会をご希望の方は、次項の「入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記事務局までご送付いただき、年会費をお納め下さい。年会費のご入金を確認次第、入会許可書を郵送致します。

お問い合わせ先

日本肝がん分子標的治療研究会事務局

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

近畿大学医学部 消化器内科学 内

TEL：072-366-0221 (ext. 3149)

FAX：072-367-2880

ホームページ：http://www.med.kindai.ac.jp/nkangan



日本肝がん分子標的治療研究会

Japan Association of molecular Targeted Therapy for HCC

入会申込書

私は、日本肝がん分子標的治療研究会に
会員として入会を申し込みます。

平成 年 月 日

日本肝がん分子標的治療研究会
事務局 工藤 正俊 殿

ふりがな

氏 名

自宅住所

(〒 -)

勤務先(施設・科)

勤務先住所

(〒 -)

勤務先 TEL

勤務先 FAX

E-mai

郵便物ご送付先：(勤務先・ご自宅)

※経費削減のためE-mailでの連絡を
メインとさせていただきますので
必ず正確に記載して下さい。

第7回日本肝がん分子標的治療研究会
プログラム・抄録集

当番世話人：熊田 卓(大垣市民病院 消化器科)

事務局：大垣市民病院 消化器内科

担当：多田俊史

〒503-8502 岐阜県大垣市南頬町4-86

TEL：0584-81-3341

(秘書 大澤：内線4560、消化器内科受付：内線2131)

FAX：0584-77-0777(中央内視鏡室)

E-mail：kanganbunshi7@gmail.com

出版： 株式会社セカンド
http://www.secand.jp/

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025